

## 色から読むレオ・レオニの作品群～スイミーに込められた意味～

国語班: 木本 佳乃子

### Abstract

In this study, I focused on the use of color in the well-known picture book *Swimmy* by Leo Lionni, and I especially examined the possible meanings behind his use of the colors red and black. I hypothesized that these colors were used intentionally to express specific ideas. As a result, I considered that in *Swimmy*, Leo made use of visibility and conspicuousness to make the red fish stand out, and at the same time, to make *Swimmy*'s black color more noticeable among them. I also interpreted that these color choices symbolized certain emotions: the red fish represented "fear" and "anger," while *Swimmy*'s black color suggested "anxiety." Furthermore, by connecting these emotions with Leo's experiences, I concluded that the red fish symbolized the Nazi regime, and the black-colored *Swimmy* represented himself.

### 要約

本研究では、絵本作家レオ・レオニの代表作である「スイミー」における色使いに着目し、その中でも作者が赤と黒という色に何らかの意味を込めていると仮定し、それがどのような意味をなのかを考察した。結果として、「スイミー」では、色の明視性と誘目性を利用して、赤い魚たちが目立つようにしたうえで、さらにスイミーの黒がその中で際立つように配色されていると考察した。またこれらの配色には、赤い魚たちに「恐怖」や「怒り」という意味を、スイミーの黒に「不安」という意味を込めていると考察した。そして、これらの感情を彼の人生経験と重ね、スイミー以外の赤い魚たちはナチス政権、黒いスイミーは作者自身を表現していると考察した。

### 1. はじめに

レオ・レオニという作家の作品に、小学校教材で有名な「スイミー」という絵本がある。本文と調和した挿絵は子供の絵本の理解度を高めるという先行研究の研究結果と、作者にグラフィックデザイナーの経験があったことから、彼は何らかの意味を持たせて作品中で色を用いたのではないかと考えた。

### 2. 研究方法

《調査1》挿絵・背景色、色彩の効果に関する論文から、配色がもつ影響について調査する。

《調査2》レオ・レオニの職歴や過去の活動、家族構成から彼の思想や価値観を考察し、《調査1》の結果に関連づけて彼の絵本中での色使いを調査する。

### 3. 結果

《調査1》

相馬(1985)より、赤、橙、黄橙、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫で比較すると、背景が黒の場合は黄色の明視性(見やすさ)が最も高く、背景が白の場合は全ての色で明視性が下がることが分かった。色の誘目性(目の引きやすさ)は、彩度が高ければ高いほど上がることも分かった。

また「色の象徴」として、赤が選ばれた感情には、怒り、嫉妬、会愛、純潔、恐怖の五つがあり、黒が選ばれた感情には怒り、罪、孤独、不安、恐怖の五つがあった。(表3-2)

そして、「単色が持つ感情効果」として、赤は「恐怖、怒り」、黒は「陰気、重厚、不安」を感じさせる効果があると分かった。(表3-3)

これらの結果に共通して、赤の「怒り、恐怖」、黒の「不安」という要素が見られた。

表-3-2 色の象徴（数字はその象徴語に対して最も適合しているとして選ばれた度数：大山，1963）

1. 怒り	赤(67), 橙(18), 黒(18)
2. 嫉妬	赤(36), 紫(26), 橙(24)
3. 罪	黒(57), 灰(50), 青紫(11)
4. 永遠	白(30), 緑味青(25), 青(19)
5. 幸福	ピンク(26), 黄橙(23), 橙(20)
6. 孤独	青(33), 灰(30), 黒(21)
7. 平静	青(29), 緑(24), 緑味青(21)
8. 郷愁	黄緑(28), 緑(24), 黄橙(21), 青(21)
9. 家庭	黄橙(40), 橙(27), ピンク(24)
10. 愛	赤(59), ピンク(19), 橙(18)
11. 純潔	白(127), 緑味青(6), 赤(3)
12. 夢	ピンク(40), 緑味青(22), 黄(15)
13. 不安	灰(82), 紫(10), 黒(9)
14. 恐怖	黒(62), 灰(30), 赤(12)

表-3-3 単色の感情効果（色彩科学ハンドブックより）

属性種別	感情の性質	色の例	感情の性質
色	暖色	暖かい	赤 激情・怒り・歓喜・活力的・興奮
		積極的	黄赤 喜び・はしゃぎ・活発さ・元気
		活動的	黄 快活・明朗・愉快・活動的・元気
	中性色	中庸	緑 安らぎ・寛ろぎ・平静・若々しさ
		平凡	紫 厳肅・優えん(婉)・神秘・不安・やさしさ
			青緑 安息・涼しさ・憂鬱
寒色	冷たい	青 落着き・淋しさ・悲哀・深遠・沈静	
	消極的	青紫 神秘・崇高・孤独	
	沈静的		
明度	明	陽明 気朗 白 純粹・清々しさ	
	中	落着き 灰 落着き・抑鬱	
	暗	陰重 氣厚 黒 陰鬱・不安・厳めしい	

《調査2》

レオ・レオニは1907年、オランダのアムステルダムに生まれた。叔父の影響で、9歳のころから王立美術館に通い、鉛筆デッサンを学び始めた。大学では経済学を先行した。のちにミラノに移り、製菓会社「Motta」の広報を担当した他、パネトーネの広告などのビジュアル制作を手掛けた。1973年には同社を退職し、グラフィックデザイナーとして独立。1939年、イタリアで施行されたユダヤ人差別法に反感を持ち、子供二人のビザの取得を待たず一人でアメリカへ亡命。以後、フィラデルフィアの広告代理店「N.W.エイヤー・アンド・サン」でアートディレクターを務めた後、雑誌『フォーチュン』や『タイム』でも活動した。50歳を過ぎると絵本作家へと転身した。多数の絵本を出版したのち、1999年に老衰で死去した。

活動履歴としては、1931年にイタリア共産党の党員と知り合い、彼の勧めで未来派運動に参加した経験があるが、方向性の違いから途中で辞退した履歴がある。ブリュッセル万博のアメリカ特設パビリオンで「未完成の仕事」と言われる、アメリカの人種問題や環境問題にフォーカスした展示を担当したが、政治的圧力を受けて数週間で閉鎖された。絵本作家になってからのインタビューでは、「私は常に絵本で政治的な発言をしている」と話したこともある。

4. 考察

彼の作品の中には、背景との彩度差や明度差の効果を活用して、主役の絵が目立つようにわかりやすい配色がされている作品が多数あった。また、赤い背景の中に黒のテキストがあるとき、赤色の持つ「恐怖、怒り」などの効果が大きく影響することに加え、彩度差があるため明視性は上がる。加えて「スイミー」の背景の海は青ではなくほとんど白で表現されているため、魚の赤色との明度差、彩度差がともに大きくなり明視性が上がる。

これらの結果から、海の中での赤い魚の群れ、更にその中でもスイミーの黒色が目立つように描かれている事がわかる。そこで彼が絵本「スイミー」でスイミー以外の魚の色を赤色にすることで「恐怖、怒り」を表し、作者の人生においてそれに当てはまるもの、また「政治的な発言」であると考え、スイミー以外の魚はナチス政権を表していると考えた。加えて、その中で強調されているスイミーの黒色は「陰気、重厚、不安」を表し、作者自身の心情を表すのではないかと考える。物語内で最終的に赤い魚たちとスイミーが力を合わせて身を守る展開から、作者の理想は民主政治だったという考察をした。

## 5. 結論

本研究では、『スイミー』における色づかいに焦点を当て、配色が視覚的・心理的にどのように影響するのかを、先行研究とレオ・レオニの生涯から考察した。その結果、配色には、物語中でのメッセージや作者の思想を視覚的に表現する重要な要素であることが明らかとなった。

ただし、本研究は『スイミー』のみに限定して研究を行ったため、レオ・レオニがすべての作品で同様の意図を持って赤、黒という色を使用しているかどうかは断定できない。今後は、彼の他の作品での色使いにもフォーカスし、より深く作者の色彩表現と思想的背景との関係を明らかにしていく必要がある。

## 6. 参考文献ならびに参考Webページ

酒井千尋・佐藤公代(2004)「絵本の挿絵の役割に関する研究—挿絵が物語理解に及ぼす影響—」, 愛媛大学教育学部紀要, 愛媛大学教育学部, 第1号, p.53-p.59

相馬一郎(1985)「色彩の心理効果」, 色材協会誌, 色材協会, 第58巻第9号, p.548-p.557

森泉文美・松岡希代子(2020)『だれも知らないレオ・レオーニ』玄光社